

# バウハウス 100+1

1919年、ワイマールに誕生したバウハウスは、社会における造形諸領域と建築の新しい在り方を求め、その実現のために必須の営みとして造形教育の革新に実験的に立ち向かった。印刷物や訪問報告等を通して始まったバウハウスの日本への影響は、水谷武彦、山脇巖・道子等がバウハウス留学を終えて帰国することで本格化した。バウハウス教育は川喜田煉七郎らによって新しいデザイン教養教育の場に受け継がれ、一方で専門教育の転換に連動し、他方ではさらに武井勝雄らを加えて普通教育としての「構成教育大系」へと定式化され、また間所はるらの教育実践のなかで一段と展開されてもいった。戦後、1954年のグロピウス来日を契機に、普通教育の中の美術教育の中にデザイン教育を新たに位置づけるだけでなく美術教育の全体を造形教育としてとらえ返し組み替える思想・実践・運動をも生み出した。

21世紀日本の美術教育は、その造形教育をも踏まえ大きく包含したうえに、21世紀のさらに更新された社会システムの中で現に展開している。本リレー講演は、この現代日本の美術教育の視点から、バウハウス100年を検証検証する場として、また同時にバウハウスという光源から日本の美術教育の現代を照らし返す場として企画される。(文 長田謙一)

# 「構成」・「造形」教育の系譜と現在 バウハウスと日本の美術教育

# BAUHAUS

無料  
要事前申込  
定員 100名

※日本美術教育連合の会員でなくても参加できます。  
7月20日(月)まで会員優先、以後先着順。  
※本シンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大にともないオンラインでの開催になりました。  
※【重要】申込に際し、著作権保護の観点から「録音・録画・撮影を行わない誓約」を必須でお願い致します。

2020(令和2)年 8月23日(日) 13:30~16:30(13:00開場)  
ZOOMによるオンラインシンポジウム

※詳細については、本連合のホームページを必ずご覧ください。→<https://insea-in-japan.or.jp/>  
※お申込は、こくちーずからお願い致します。→<https://kokucheese.com/event/index/598404/>



## 当日のスケジュール

開会あいさつ 結城 孝雄 (公益社団法人日本美術教育連合理事・東京家政大学教授)  
企画趣旨 長田 謙一 (コーディネイター・パネル司会・東京都立大学客員教授)

## ●第1部 バウハウスの教育 再考 13:45 ~ 14:30

講師: 長田 謙一  
指定討論者: 小林 貴史 (東京造形大学教授)

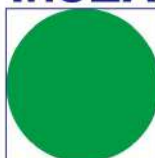
## ▲第2部 日本の「構成」・「造形」教育 再考 14:45 ~ 15:30

講師: 藤原 智也 (愛知県立大学准教授)  
指定討論者: 茂木 一司 (群馬大学教授)

## ■第3部 討議 15:30 ~ 16:30

上記全登壇者・総合司会 司会: コーディネーター・長田 謙一  
運営: 美術教育連携交流委員会 山口 喜雄 (元宇都宮大学教授) 橋本 光明 (すみだ北斎美術館長)

InSEA



担当・連絡先: 「バウハウスと日本の美術教育」事務局 長田 謙一 k\_nagata@tmu.ac.jp

公益社団法人 日本美術教育連合

主催: 公益社団法人 日本美術教育連合 理事長 大坪 圭輔・武蔵野美術大学教授